

|                 |   |
|-----------------|---|
| CAS             | 76448   |
| 物質名             | ヘプタクロル  |
| IARC Vol. (発行年) | 79 (2001年)  |
| 遺伝子傷害性に関する知見    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ in vitro 試験系では、本物質は細菌を用いる試験で陰性の結果であった。本物質とクロルデンの混合物は、げっ歯類の細胞を用いた試験で細胞間のコミュニケーション阻害及び遺伝子突然変異を誘発した。ヒトの線維芽細胞を用いた試験で不定期 DNA 合成を誘発した。</li> <li>・ in vivo 試験系では、トランスジェニックマウスを用いた試験及び優性致死試験で陰性の結果であった。</li> </ul> |
| 実験動物に関する知見      | <p>評価：十分な証拠</p> <p>概要：マウス、ラットへの経口投与の結果、マウスの雌雄で肝細胞の腫瘍(がんを含む)の発生数増加を、ラットで甲状腺小胞細胞の腺腫の発生数増加を認めた。</p> <p>イニシエーション - プロモーション実験では、マウスに N-ニトロソ-ジエチルアミン投与後、クロルデンとヘプタクロルを投与した結果、肝細胞の腫瘍の発生数増加を認めた。</p>   |
| ヒトに関する知見        | <p>評価：不十分な証拠</p> <p>概要：米国の職業暴露に関するコホート調査で肺がんのわずかな過剰発生を認めたが、労働者は複数の化学物質の暴露を受けていた。</p>  |
| 評価結果            | 上記のとおり、本物質は細菌及び in vivo 試験系において遺伝子傷害性が認められなかった。   |